

『人生の同行者』  
マタイの福音書 28:16～30

見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。

序]

人生は旅に譬えられる。人生も、旅のように出発があり終わりがある。旅路には、天候、環境、道筋の変化があるが、人生にも移り変わりがある。しかし、もし旅路に誰も同行者がいなければどうか。我々が生涯を歩む中で、忘れてはならない存在はイエスである。イエスは我々の人生の同行者になって下さる。「世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」と、なぜイエスは約束出来たのか。主は今も生きておられるからである。キリスト教の真の把握は、ともにいて下さるキリストをどれだけリアルに捉えられるかで量られる。■さて、「世の終わりまで」とイエスがおっしゃる以上、世には終わりがある。我々がその時までにはどうしても経験しておかなければならないことが三つある。

本]

I キリストの弟子になること(19)

それは、キリストを主と仰ぐこと。具体的には、十字架上でイエスの死を、罪人である自分の身代わりだったと受け止め、それからの人生、甦った主が現実に自分を助け、世の終わりまで共にいて下さるのだと信じ続けることである。

II バプテスマを受けること(19b)

Great Commission（大宣教命令）の中で、どうして主は洗礼を強調されたのか。洗礼のもつ意味に理由がある。

①自分の信仰を公にすること。 ②神の家族の一員であることの証明。

新約聖書（使徒の働き）を読むと、主を信じて、すぐに洗礼を受けている。もし、キリストを受け入れたら、時を移さず、洗礼を受けることをお勧めする。自分と他者に対する証となるから。

III 一生涯、聖書の教えから離れないこと(20)

「わたしが命じておいたすべてのことを守るように、彼らに教えなさい」

我々は、礼拝や祈祷会で語られるメッセージだけで終わらせず、聖書中に書かれている、クリスチャンに与えられることになっているはずの驚くべき特権を、自分で読んで、自分で感動すべきである。

結]

以上のようなステップを踏みつつ、クリスチャンライフを過ごす中で、「いつもともにいる」とおっしゃって下さる主の臨在の約束を実感できる。キリストの弟子としての自覚もなしに、日々の御言からの養いなしに、主の臨在だけを感じようとしても無理である。毎日、主と交わろう。